

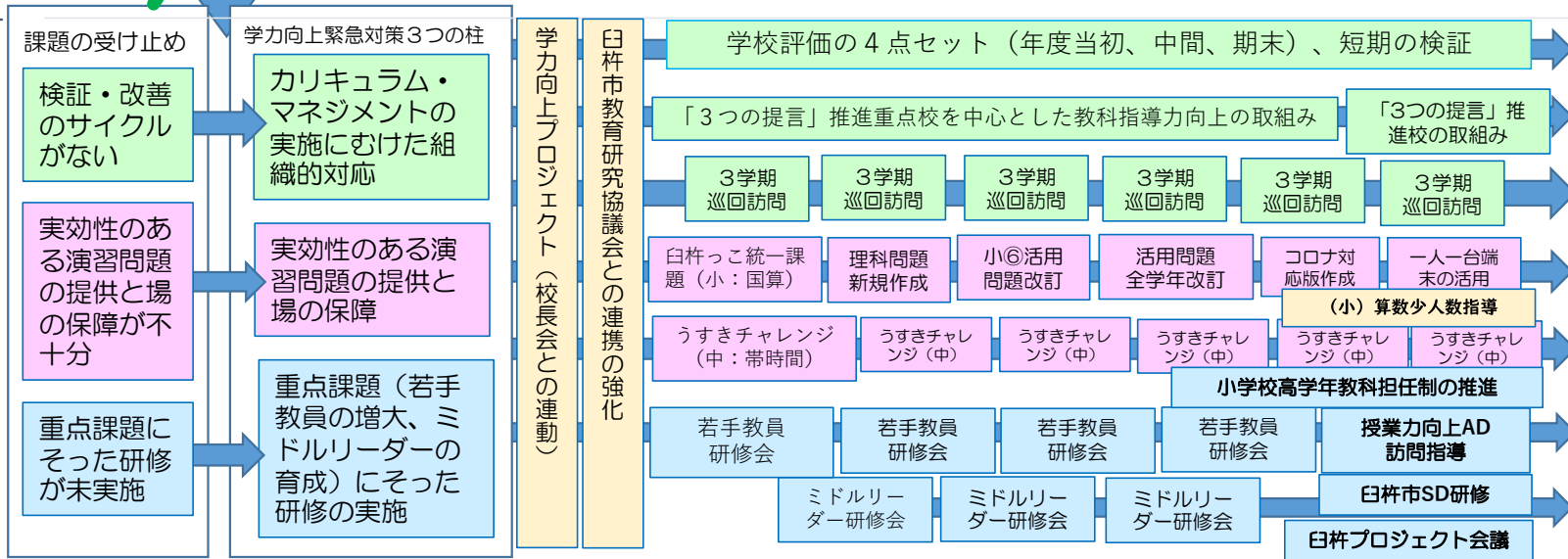
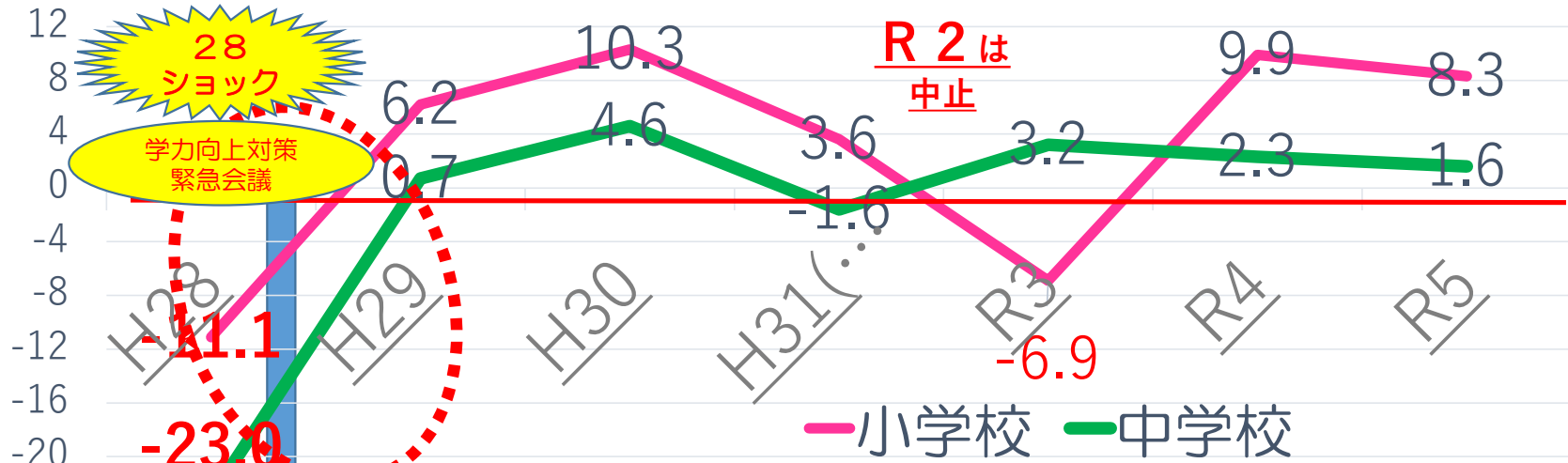
令和5年度 全国学力・学習状況調査

臼杵市の結果の受け止め

(分析および今後の取組み)

【全国学力調査】 臼杵市全体の概要について

直近7年間の経年変化（全国平均正答率：合計値との差の推移）



【白杵市】 令和5年度 全国学力・学習状況調査 小学校 国語

1. 結果の概要

分類・区分		対象問題数	白杵市平均正答率	大分県平均正答率	全国平均正答率
全体		14	70.0	69.0	67.2
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	5	71.4	71.6	71.2
	情報の扱い方に関する事項	2	65.8	63.2	63.4
	我が国の言語文化に関する事項	0			
思考力 ・判断力 ・表現力等	話すこと・聞くこと	3	79.9	76.2	72.6
	書くこと	1	28.8	28.3	26.7
	読むこと	3	75.5	72.9	71.2
評価の視点	知識・技能	7	69.8	69.2	68.9
	思考・判断・表現	7	70.7	67.8	65.5
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	9	76.7	74.5	73.6
	短答式	2	62.8	63.0	62.7
	記述式	3	56.0	54.2	51.1

2. 学びの成果が見られる問題の趣旨（正答率が全国の前年度より5ポイント以上上回った問題）

○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。
【読むこと・思判表・記述式】（+5.8）

○必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができるかどうかをみる
【話すこと聞くこと・思判表・選択】（+6.8）（+8.0）

○目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。
【話すこと聞くこと・思判表・記述式】（+7.0）

3. 課題の見られる問題の趣旨（正答率が全国の前年度より下回った問題）

○学年別配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。（意外）
【言葉の特徴や使い方に関する事項・知識技能・短答式】（-1.6）

○日常よく使われる敬語を理解している。（おっしゃった・うかがって）
【言葉の特徴や使い方に関する事項・知識技能・選択】（-0.6）

4. 国語科に関する児童質問紙の回答（矢印は昨年度と比較して）

質 問	当てはまる		当てはまらない	
	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
国語の勉強は好きだ	24.5↑	40.5↑	23.7↓	11.3↓
国語の勉強は大切だ	68.1↑	28.4↑	1.9↓	1.6↓
国語の授業の内容はよく分かる	43.2↑	44.4↓	9.7↓	2.7↓
国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つ	63.0↑	31.1↓	5.1↑	0.8↓
今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか	最後まで書こうと努力した	解答しなかったり、途中であきらめたりしたものがあった	全く解答しなかった	その他無回答
	89.5↑	9.0↓	1.2↑	0.4
解答時間は十分でしたか	余った	ちょうどよかった	やや足りなかった	全く足りなかった
	34.8↑	40.6↓	22.3↓	2.0↓

○問題番号【1-三一(1)】

問題の概要	出題の趣旨	白桦市正答率	県正答率	全国正答率
【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(いがい)	学年別配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。	51.2	53.9	52.8

雑草取りを続けたのですが、ア いがい に雑草が生えてきて、とてもこまりました。

つきかんは7月1日から15日までです。

(1) 三 川村さんは、「川村さんの文章」を読み返し、習っている漢字がひらがなになっていたイ、ウを漢字に書き直すことにしました。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。 部ア、ウを漢字でついでに書きましよう。 部ア

(解答累計)

意外と解答している	51.2
意は解答しているが、外は解答していない	3.6
意は解答していないが、外は解答している	35.6
上記以外の解答	4.8
無解答	4.8

(考察)

文章中の言葉を漢字を使って書き直す問題である。文章の内容から正答は「意外」である。「意は解答していないが外は解答している」の誤答が35.6%であることから、「以外」と書いた児童が多かったと思われる。同音異義語の漢字の意味を理解し、文章の内容にあった漢字を書くようにするために、日記等で既習の漢字を使った文を書くことや、同じ読み漢字の意味を比較するなどして理解させるようにしたい。

○問題番号【3-三一】

問題の概要	出題の趣旨	白桦市正答率	県正答率	全国正答率
敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する。	日常よく使われている敬語を理解しているかどうかをみる。	56.8	57.7	57.6

- 4 ア 申した
- 3 ア おっしゃった
- 2 ア 申した
- 1 ア おっしゃった
- イ 申した
- イ お聞きになって
- イ お聞きになって
- イ 申した
- イ お聞きになって
- イ 申した
- イ お聞きになって

聞きがしたことを相手に確かめるとき

○さんが ア イ

ことを、もう一度 イ イ

いいですか。

三 谷さんは学習をふり返り、インタビューをするときの敬語の使い方について、ノートにまとめています。次の【谷さんのノートの一部】の ア イ に入る内容の組み合わせとして最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

【谷さんのノートの一部】

(解答累計)

1と解答している	56.8
2と解答している	2.0
3と解答している	34.4
4と解答している	2.4
その他の解答	1.2
無解答	3.2

(考察)

話し言葉を敬語を使って表現する問題である。アはいうの尊敬語、イは聞くの謙譲語である。正答は、1のアはおっしゃった、イはうかがってである。誤答でイをお聞きになっての尊敬語を選択している児童が34.4%いる。主語に着目して相手が主語の場合は尊敬語、自分や身内の方が主語の場合は謙譲語を使うことを理解させたい。また、日頃から敬語を使って話す場では、敬語を使うことも大事にしたい。選択式で無解答率が他の問題より高いのは、最後の問題で時間が足りなかったものと考えられる。できそうな問題から取り組むことも大切にしたい。

全体の結果から

国語に関する児童質問紙の回答を白杵市と全国と比較してみると、

質問事項	白杵市（肯定的な回答）	全国（肯定的な回答）
国語の勉強は好きですか	65.0	61.5
国語の勉強は大切ですか	96.5	94.2
国語の授業の内容はよく分かりますか	87.6	85.7
国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立ちますか	94.1	92.8
今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか	最後まで書こうと努力した	
	89.5	80.7
解答時間は十分でしたか	75.4	64.1

どの項目も、全国より少し高い傾向にある。特に、「書く問題について最後まで書こうと努力した」は、一昨年度全国よりも低く79.9であったが、昨年度から伸び、今年度は89.5であった。この2年で10%近く上がっている。粘り強く問題と向き合う児童が増えている。「書くこと」を比較的得意としている白杵市の子どもたちの特徴が表れている。

学習指導要領の内容で見ると、全ての項目で全国を上回っている。昨年度、「話すこと・聞くこと」「読むこと」は全国を下回っていたが、今年度は上回った。特に読むことは一昨年まで10ポイント低かったが、昨年度から伸び、今年度は4.3ポイント上回っている。授業改善が進み、飛躍的に伸びている。

問題形式では、「選択式」「短答式」「記述式」とも全国の正答率を上回っている。

今回の調査問題では、文学的な文章も説明的な文章も出題されておらず、大問3問とも資料やインタビューの内容からの問題となっている。

今回の全国学力・学習状況調査の結果より、以下のようなことを意識した授業を行っていきたい。

- 学習指導要領で、その学年での指導事項をしっかりと理解し、単元構成を考える。
- その単元で「何ができるようにするか」を明確にし、児童がその学びを実感できるよう、学んだことを活かす学習を取り入れる。
- 文章と図や表を対応させ、伝えたいことを関連付けて説明したり書いたりする。
- 目的に応じて必要な条件を見つけるために、ただ読むのではなく、「何のために読むのか」ねらいを明確にして読む。
- 漢字の習得・定着は、ただ書くのではなく、既習の漢字を日記・作文で使用するなど、家庭学習等の仕方を工夫して行う。
- 情報の関係を様々な方法で整理することで、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりできることを実感できるように指導する。
- 児童が日常生活において考えをまとめる際に、単一の情報のみに基づくのではなく、複数の情報を比較したり、関連付けたりして検討するように指導する。

【白杵市】 令和5度 全国学力・学習状況調査 小学校 算数

1. 結果の概要

分類・区分		対象問題数	白杵市	大分県	全国
全体		16	68.0	64.0	62.5
学習指導要領 の領域	A 数と計算	6	70.5	68.5	67.3
	B 図形	4	57.3	51.0	48.2
	C 測定	0			
	D 変化と関係	4	73.1	71.1	70.9
	E データの活用	3	70.9	67.5	65.5
評価の視点	知識・技能	9	71.9	68.4	67.2
	思考・判断・表現	7	62.5	58.7	56.5
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	63.4	59.6	57.7
	短答式	7	77.6	75.3	74.7
	記述式	4	56.0	50.3	47.3

2. 学びの成果が見られる問題の趣旨（正答率が全国の正答率+5上回った問題）

- 台形の意味や性質について理解している。【図形・知識技能・選択】（+12.6）
- 正方形の意味や性質について理解している。【図形・知識技能・短答】（+5.2）
- 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる【図形・思判表・記述】（+16.8）
- 加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができる。
【数と計算・知識理解・短答】（+8.4）
- 百分率で表された割合について理解している。【変化と関係・知識技能・選択】（+5.2）
- 示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出した違いを言葉と数を用いて記述できる。【データの活用・思判表・記述】（+13.8）
- 二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができる。
【データの活用・知識技能・選択】（+5.0）

3. 課題の見られる問題の趣旨（正答率が全国の正答率を下回った問題）

- 「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができる。
【数と計算・データの活用・知識技能・短答】（-2.5）

4. 算数科に関する児童質問紙の回答（矢印は昨年度と比較して）

質 問	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
	算数の勉強は好きだ	41.2↑	29.2↑	17.1↓
算数の勉強は大切だ	78.2↑	16.7↓	3.5↑	1.6↓
算数の授業の内容はよく分かる	45.9↓	38.1↑	12.8↑	3.1↓
算数の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つ	74.7↓	20.2↑	3.1↑	1.9↑
今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか	最後まで書こうと努力した	解答しなかったり、途中であきらめたりしたものがあつた	全く解答しなかった	
	85.7↓	13.3↓	0.8↑	
解答時間は十分でしたか	余った	ちょうどよかった	やや足りなかった	全く足りなかった
	58.6↑	28.1↓	10.2↓	2.7↑

○問題番号【4-(2)】

問題の概要	出題の趣旨	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日を求める。	「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができる。	73.2	75.4	75.7

(解答累計)

5と解答しているもの	73.2
4と解答しているもの	8.8
3と解答しているもの	1.2
2と解答しているもの	8.0
7と解答しているもの	1.2
6と解答しているもの	1.6
1と解答しているもの	0.8
上記以外の解答	3.6
無解答	1.6

(考察)

「以上」の意味を理解し、表から30分以上運動した日数を求める問題である。正答は5日である。誤答の4が多いのは30分を以上に入れなかったためであり、誤答の2が多いのは以下と間違えたためと思われる。30以上は、30を含んだ大きな数、30以下は、30を含んだ小さな数、30未満は、30を含まない小さな数であることをしっかりと理解させたい。

(2) あいかさんたちは、5年生と6年生が30分以上の運動を週に何日しているのかを調べてみたいと思い、委員会の活動として運動カードを作りました。



5年生と6年生に運動カードを配って、運動した時間を記録してもらいましょう。

下の運動カードは、あいかさんが5月9日から5月15日までの1週間に運動した時間を記録したものです。

日にち	運動した時間(分)					運動した時間の合計(分)
	体をのびやすくする運動	遊具を使った運動	走る運動	縄とび	ボールを使った運動	
5/9(月)	10				25	35
5/10(火)	5			10	15	40
5/11(水)	10			5	15	30
5/12(木)	5			10		15
5/13(金)	5				10	15
5/14(土)			20		35	55
5/15(日)		10			35	45



運動カードを見ると、運動した時間の合計が30分以上になった日もなかった日もありました。

左の運動カードで、運動した時間の合計が30分以上になった日数は、全部で何日ありますか。
答えを書きましょう。

○問題番号【2-(3)】

問題の概要	出題の趣旨	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの大きさを書く	正三角形の意味や性質について理解している	26.8	23.1	24.9

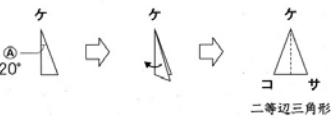
(解答累計)

30と解答しているもの	26.8
60と解答しているもの	33.2
15と解答しているもの	0
120と解答しているもの	1.6
45と解答しているもの	8.8
90と解答しているもの	1.2
20と解答しているもの	1.2
40と解答しているもの	14.0
⑫ 上記以外の解答	10.8
⑬ 無解答	2.4

ゆいなさんとわたるさんは、【えいたさんのつくり方】の④の図で、下の④の角の大きさをそれぞれちがう大きさにしました。



私は、④の角の大きさを20°にしました。切って開いた三角形ケコサは、二等辺三角形になりました。



私は、切って開いた三角形を正三角形にするために、④の角の大きさをゆいなさんとちがう大きさにして切りました。

切って開いた三角形を正三角形にするには、④の角の大きさを何度にするべきですか。
答えを書きましょう。



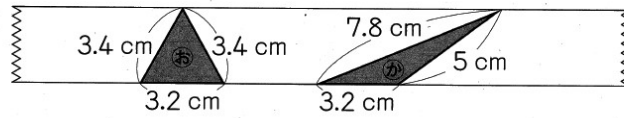
(考察)

正三角形の一つの角度は60度であるので、切って開く前のAの角度は半分の30度である。誤答で60度が多いのは、開く前のAの角度ではなく、正三角形の一つの角度を求めたものと思われる(3人に1人)。誤答の40度は、例の問題の20度を開いた角度を求めたものと考えられる。いずれにせよ、問われている内容に対して答えていないためと考えられるので、問題文をじっくり読み、問われている内容に対して答えることが大切である。

○問題番号【2-(4)】

問題の概要	出題の趣旨	白杵市正答率	県正答率	全国正答率
テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	37.6	27.4	20.8

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくります。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。
 下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。
 また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㊸の面積のほうが大きい。
- 2 ㊹の面積のほうが大きい。
- 3 ㊸と㊹の面積は等しい。
- 4 ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

(解答累計)

3 等しいと解答 (底辺・高さ等しい記述)	37.6	2 おとかの辺の大きさを比べている	1.2
3 等しいと解答 (底辺のみ記述)	6.4	2 三辺の長さの積で比べる	2.4
3 等しいと解答 (高さのみ記述)	4.0	2 周りの長さを求めようとしている	4.0
3 等しいと解答 (誤記述・無回答)	7.6	2 かが大きいと回答 (誤記述・無回答)	6.8
1 おが大きいと解答 (底辺・高さ等しい記述)	0	4 比べられないと解答 (長さ未記入)	0
1 おが大きいと解答 (底辺のみ記述)	0.8	4 比べられないと解答 (底辺・高さ等しい記述)	0.4
1 おが大きいと解答 (高さのみ記述)	0	4 比べられないと解答 (底辺記入・具体的な高さなし)	1.6
1 おが大きいと解答 (誤記述・無回答)	3.6	4 比べられないと解答 (底辺のみ記述)	0.8
2 かが大きいと解答 (底辺・高さ等しい記述)	0	4 比べられないと解答 (高さ記入・具体的な高さなし)	0
2 かが大きいと解答 (底辺と残りの一辺を高さとしてとらえている)	1.6	4 比べられないと解答 (高さのみ記述)	0
2 かが大きいと解答 (底辺のみ記述)	0.4	4 高さについて具体的な記述がないもの	10.0
2 かが大きいと解答 (高さのみ記述)	0	4 それ以外	8.0
		上記以外の答え	2.0
		無解答	0.8



(考察)

底辺と高さが等しい2つの三角形の面積を比べる問題である。正答は「等しい」である。誤答の18%は面積は等しいと考えているものの、2つの三角形の底辺や高さが等しいことを説明できていない。三角形の高さは、頂点からその対辺(底辺)へ垂直に引いた長さである。テープの幅が等しいため、高さは同じであるが、辺の長さが「か」の方が長いため16.4%の児童が「か」が大きいと解答したものと思われる。一昨年も、三角形の面積を求める問題では、1/3の児童が3つの辺の長さの積で求めていた。問題を解くための必要な条件だけを提示するのではなく、必要な辺の長さなど取捨選択したり、自ら探し出したりする問題にチャレンジするようにしたい。

全体の結果から

算数に関する児童質問紙の回答を白杵市と全国と比較してみると、

質問事項	白杵市 (肯定的な回答)	全国 (肯定的な回答)
算数の勉強は好きですか	70.4	61.4
算数の勉強は大切ですか	94.9	94.2
算数の授業の内容はよく分かりますか	84.0	81.2
算数の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立ちますか	94.9	93.3
今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方など各問題がありました。どのように解答しましたか	最後まで努力した	最後まで努力した
	85.5	80.3
解答時間は十分でしたか	86.7	84.5

どの項目も、全国並みか、少し高い傾向にあり、算数の学習の大切さや学習したことは将来役に立つと考えている児童は多い。

領域ごとに見てみると、「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」とも、全国の正答率を上回っている。

評価の視点で見ると、「知識・技能」「思考・判断・表現」とも上回っている。

問題形式では、「選択式」「短答式」「記述式」とも全国の正答率を上回っている。特に記述式は8.7ポイント上回っている。

無解答率が、どの問題でも全国と比べて低く、児童が根気強く自分の考えを書こうとしていることが分かる。

今回の全国学力・学習状況調査の結果より、以下のようなことを意識した授業を行ってきたい。

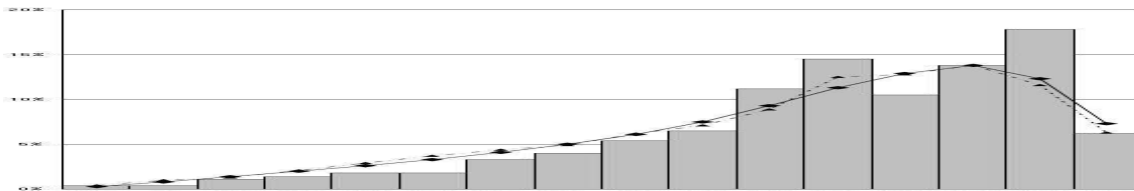
- 新大分スタンダードを意識し、子どもたちが課題を見つけ、その学びを自分の言葉でまとめること。
- 1時間毎の授業のめあてと振り返りをしっかりと行い、単元を通して「どのようなことができるようになるか」に見通しを持ち、「どのようなことができるようになったか」を実感できること。
- 多様な考えを出し合う課題と、条件に合わせて考えを練り合う課題のどちらも大切にしていくこと。
- 自分の考えを式や言葉でノートに書き表したり、対話的な学びで表現したりし、説明する力を磨くこと。
- 問題を解くのに不要な数値等を提示し、自らが必要な数値・情報を選択し課題解決をしていくこと。
- 具体的な数値が示されていない場合において、問題を解決する際に必要な情報を主体的に見い出したり、適当な数値を当てはめたりして考えることができるように指導する。
- 探究的な学習等で統計的探求プロセスを活用し、グラフや表を作成・分析し課題に対する結論を述べること。
- 複数のグラフを組み合わせたグラフを読み取る力を身に付けさせるとともに、特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことを、グラフのどの部分からどのように考えたかを明らかにして、他者に分かるように説明できるように指導する。
- 家庭学習や小テスト等で基礎基本の定着を積み重ねること。
- 学んだことを日常生活の場で生かすような活用問題に取り組み、より学びを実感できるようにすること。日常生活の問題を解決するために、場面を解釈して数量の関係を捉え、問題の解決方法を式や言葉を用いて説明することができるように指導することも大切である。

【臼杵市】令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

正答数分布図 横軸は正答数、縦軸は割合（◆：全国 ▲：大分県 □：臼杵市）

【中学校国語】全問 15問 平均正答率73（大分県 69、全国 69.8）

令和5年度



数値の高いもの	数値の低いもの
○正答率が全国値を上回った設問は 15 問中 11 問 ○市内全中学校が全国値を上回った設問は 4 問	○正答率が全国値を下回った設問は 15 問中 4 問
①「意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる」(情報の扱い方に関する事項) 72.1%(+7.0)	①「目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる」(話すこと・聞くこと) 87.0%(−0.5)
②「事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる」(言葉の特徴や使い方に関する事項) 94.6%(+3.5)	②「観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる」(読むこと) 62.7%(−0.3)
③「文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる」(読むこと) 78.6%(+4.4)	③「文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる」(言葉の特徴や使い方に関する事項) 32.6%(−11.3)
④「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる」(我が国の言語文化に関する事項) 91.3%(+8.8)	④「自分の考えが伝わるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる」(書くこと) 71.0%(−1.1)

【成果】

- 臼杵の正答率は 73 で全国・県平均を上回った(全国 69.8、大分県 69)。
- 「知識及び技能」の 3 領域中 2 領域「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」は全国・県平均を上回った。
- 「思考力、判断力、表現力」の 3 領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」とも全国・県平均を上回った。
- 無回答が少ない(15 問中 13 問が全国より少なく、うち 3 問は無回答率0%)。
- 低学力層の生徒の割合が全国・県平均より少ない(正答数 9 問以下の生徒が全国・県より少ない)。
- 生徒質問紙調査から、生徒は国語の学習の必要性や有用性を意識していると言える。
 - ・「国語の授業の内容はよくわかりますか」肯定的回答 88.6%(県 80.1 全国 80.0)
 - ・「国語の勉強は大切だと思いますか」92.6%(県 92.6 全国 92.4)
 - ・「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」91.8%(県 89.6 全国 88.7)

【課題と対策】

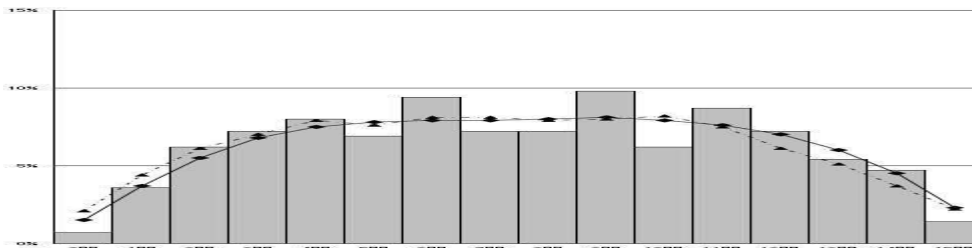
- ③「文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる」問いでは、「オ(推)し量って」を 67.4%が書けなかった。音読みや熟語で書くことができても、文脈を理解し訓読みで書けないことが考えられる。漢字ノートの指導だけでなく、語彙を増やしたり言葉を広げたりする指導や、新しく習得した言葉を意識して使う場を設定する学習を仕組む必要があると考える。
- ④「自分の考えが伝わるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる」問いでは、三つの条件のうち「①②は満たし、③を満たさない」解答が誤答中で最も多かった。本文に例示された判じ絵の解説方法の説明を参考にし、A・B いずれかの判じ絵を説明する文を書かせる問いだった。③「判じ絵の解説方法の説明」に不備がある誤答が多かったのは、判じ絵を解説できなかったことも考えられるが、本文のどの部分を根拠とすべきかという「読むこと」の誤りが影響していることも考えられる。文章、図、設問の例など複数テキストを考え合わせるのが苦手であることも考えられる。説明的文章だけでなく、レポート、新聞記事、ポスターなど様々な形式のテキストを読み慣れさせる必要がある。
- 生徒質問紙調査から、国語の教科学習への興味をもたせたり、粘り強く学習する姿勢を身に付けさせたりする指導が必要であることが分かる。【成果】国語の学習の必要性や有用性を意識しているので、「分かって楽しい」教科をめざすべきである。
 - ・「国語の勉強は好きですか」肯定的解答 71.7%(県 62.0 全国 61.4)
 - ・「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した 82.1%(県 76.6 全国 74.3)
- 生徒質問紙調査「解答時間は十分でしたか(国語)」によると、18.2%(県 23.1%)の生徒が不足を感じている(やや足りなかった+全く足りなかった)ので、テキストを素早く読む指導や時間内に解答する指導が必要である。
- 臼杵市平均では、正答率が全国平均を超えている問題でも、正答率に学校差がある(③一:最大 39.8)。課題が各校で異なるため、各校で自校の分析を行い、課題を明確にして授業改善に生かす必要がある。

【臼杵市】令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

正答数分布図 横軸は正答数、縦軸は割合（◆：全国 ▲：大分県 □：臼杵市）

【中学校数学】全問 15問 平均正答率51（大分県49、全国51.0）

令和5年度



数値の高いもの	数値の低いもの
<p>○正答率が全国値を上回った設問は、15問中6問</p> <p>4 「反比例の意味を理解している」 48.9% (全国+6.1)</p> <p>6(2) 「目的に応じて式を変形したり意味を読み取ったりして、理由を説明することができる」 63.4% (全国+4.6)</p> <p>8(1) 「表やグラフから必要な情報を適切に読み取ることができる」 61.6% (全国+4.1)</p> <p>8(3) 「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」 47.8% (全国+5.0)</p>	<p>○正答率が全国値を下回った設問は、15問中9問</p> <p>1 「自然数の意味を理解している」 40.9% (全国-5.2)</p> <p>5 「累積度数の意味を理解している」 43.8% (全国-2.3)</p> <p>7(1) 「四分位範囲の意味を理解している」 61.2% (全国-4.5)</p> <p>7(2) 「複数のデータの分布の傾向を比較し、理由を数学的用語を用いて説明する」 30.1% (全国-3.5)</p> <p>9(1) 「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる」 25.7% (全国-6.4)</p>

【成果】

○「数と式」「関数」で正答率が高い

・とくに、「関数」は全国正答率よりも+3.4%と高かった。表・式・グラフを関連付けて授業を行い、問題解決に心がけている成果がでている。

○記述式の説明する力の正答率が高い（5問中3問 全国正答率を超えている）

・日常生活と関連付けた問いを設定することで、事象を数学的に解釈する力が身につけてきている。

○生徒質問紙

- ・「数学の勉強は大切だと思いますか」は、86.9%（県 85.8・全国 85.0）
- ・「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」は、81.6%（県 77.5・全国 75.8）

【課題と対策】

○9「図形」領域の正答率が低い

根拠や理由を用いて説明することができていない。三角形の合同の証明をする力は、ついてきているがそれに基づいて、同位角や錯角が等しいことを証明することができていない。とくに、証明する際に根拠が抜けていたり不十分だったりしている。

- ・図形では、説明する際に適切な用語や根拠を用いることを徹底させる。
- ・定義や定理の意味を正しく理解させ、それを活用するような問題をうすきチャレンジや週末課題で多く扱っていく。三角形や平行四辺形の証明も同時にフォローアップしていく。

○1、5、7用語の意味を正しく理解できていない

用語は知っていても正しく意味を理解していない。

- ①自然数（正の整数）⇒0を含めて選び誤答 ②累積度数⇒相対度数と誤答 ③四分位範囲⇒範囲と誤答
- ・似ている用語との意味の違いを正しく理解させる。「知識・技能」を正しく身につけさせ、「思考・判断・表現」の問題で活用できるようにさせる。

○各学校で正答率に差がある

学校ごとに細やかな分析を行い、授業改善をし、正答率の低い問題に対してのフォローアップを行う。

- ・正答率の高い学校の取組を数学部会全体で共有し、生徒の力を伸ばすための方法について意見交流する。

○生徒質問紙（問題紙）

「解答時間は、十分でしたか」では、時間が足りなかったと感じている生徒が半数以上を占めている。

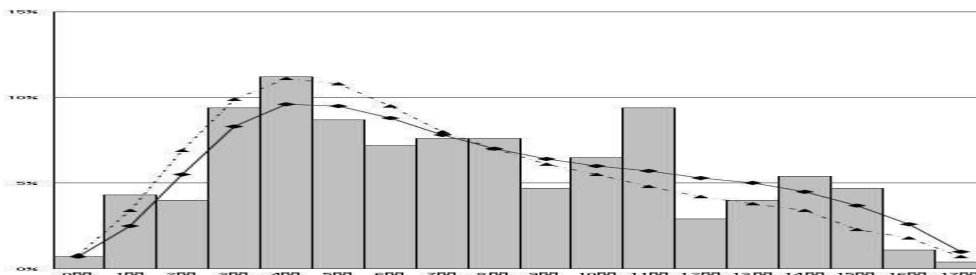
- ・問題文の情報量が多いと読み取りに時間がかかっていて、必要な情報を読み取るためのポイントなども日頃の授業の中で情報を読み取り整理する力をつけていく。

【臼杵市】令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：英語）

正答数分布図 横軸は正答数、縦軸は割合（◆：全国 ▲：大分県 □：臼杵市）

【中学校英語】全問 17問 平均正答率44（大分県41、全国45.6）

令和5年度



数値の高いもの	数値の低いもの
<p>○正答率が全国値を上回った設問は 17 問中 3 問 正答率が大分県値を上回った設問は 17 問中 14 問</p> <p>⑤(1)ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する。 56.9% (全国+0.9% 県+2.2%)</p> <p>⑦(1)図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する。 64.1% (全国+6.1% 県+8.1%)</p> <p>⑨(1)与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる。 23.2% (全国+2.3% 県+5.4%)</p>	<p>○正答率が全国値を下回った設問は 17 問中 14 問 正答率が大分県値を下回った設問は 17 問中 3 問</p> <p>①(1)ある状況を描写する英語を聞き、その内容を適切に表している絵を選択する 74.6% (全国-4.4% 県+2.7%)</p> <p>①(2)道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する。 60.9% (全国-3.5% 県+4.2%)</p> <p>②忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する 55.1% (全国-6.0% 県-0.9%)</p> <p>③バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する 38.0% (全国-3.2% 県+1.8%)</p> <p>④水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する 49.3% (全国-5.5% 県-0.4%)</p>
<p>【成果】</p> <p>○臼杵市の正答率は44%で大分県の41%を上回っている。また、大分県の正答率を上回った設問は17問中14問となっている。</p> <p>○これまで課題とされていた「読むこと」については、全部の設問において、市内5校中3校以上が全国の正答率を上回っており、次第に力をつけつつある。</p> <p>○生徒質問紙「1、2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思いますか」の質問について「そう思う」40.8% (全国+3.0%)</p>	
<p>【課題と対策】</p> <p>○臼杵市全体としては、「聞くこと」において特に課題が見られる。「聞くこと」に関する授業改善が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒質問紙「1、2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか」の質問について「そう思う」35.1% (全国+2.4%) と全国値よりも高い数値になっているにもかかわらず、「聞くこと」の概要や要点を聞き取る設問に対する正答率は低い。 ・「家庭学習の課題（宿題）として、どの程度 PC・タブレットなどの ICT 機器を使用して、英語の音声を読んだり英語を話す練習をしたりしていますか」の数値は全国と比較すると低く、タブレット端末の有効活用を考える必要がある。 ・英語母語話者の英語を聞く機会を増やすとともに、聞き取りのポイント等の「聞くこと」の指導を行う必要がある。例えば、リスニングの後、概要や要点についてペアで確認をさせたり、英語の音の繋がりや弱音など英語の音の特徴に着目させたりしながらスクリプトを音読するなどの活動を取り入れる。また、うすきチャレンジなどの時間にリスニングを取り入れるなど、英語を聞く機会を増やす必要がある。 <p>○生徒質問紙「英語の授業の内容はよく分かりますか」について全国、県ともに下回っており、「わかる授業」への授業改善が必要である。</p> <p>○学習指導要領の内容を確認したり、全国学力・学習状況調査の問題分析を行ったりして、身につけさせるべき力を再確認し、授業改善をすすめていく必要がある。</p> <p>○各校の傾向にばらつきがあるため、各校において自校の傾向分析を行い、授業改善が必要である。</p>	

【 臼杵市 】

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

1 調査結果の概要

児童質問紙

- 先生がよいところを認めてくれると感じている児童が全国より多い。
- 自分で計画を立てて学習している児童が全国より多い。
- 自分で考え課題解決をしたり、話し合う活動を通じて自分の考えを深め・広げたりする児童が多い。
- 本を読んだり借りたりするために、図書館等に行く児童が全国より多い。
- 学習した内容について、分かった点や分からなかった点を見直し、次の学習につなげる児童が多い。
- △新聞を読む習慣があると回答した児童が全国よりも少ない。
- △外国の人と友達になるや英語を使うような職業についたりしたいと思う児童が全国より少ない。

生徒質問紙

- 自分で計画を立てて学習している生徒が全国より多い。
- 休日に1時間以上勉強している生徒が全国より多い。
- ICTを活用した授業等を行う割合が高く、効果的であると感じている生徒が96%いる。
- 自分で考え課題解決をしたり、話し合う活動を通じて自分の考えを深め・広げたりする生徒が多い。
- △自分にはよいところがあると思う生徒が全国より少ない。
- △学校に行くのは楽しいと思っている生徒が全国よりも少ない。
- △新聞を読む習慣や、読書が好きであると回答した生徒が全国よりも少ない。
- △外国の人と友達になるや英語を使うような職業についたりしたいと思う生徒が全国より少ない。

2 臼杵市の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

- ・新大分スタンダードの授業を今まで同様軸にしながら、特に「生徒指導の3機能」をいかした協働的な学びの場を発達段階に応じて設定し、対話を通して学びを深めることが好きな児童生徒を育む。
- ・本や新聞に日常的に親しむ場と時を設けたり、個別最適な学びや協働的な学びで新聞やICT機器を使った課題解決学習を設定したりする。
- ・英語に親しむためにALTとの英会話を積極的に行ったり、観光客とのふれあい等を通して世界に興味関心を持てるような工夫を図っていく。

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

小学校：学校質問紙

- 授業や学級の問題を抱えている児童に率先して話し合いの場を設けている。
- 授業改善が進み、児童が自ら発言したり課題解決をしたりすることができている。
- 教育活動に必要な人的・物的資源等を効果的な組み合わせた指導計画の作成を行っている。
- ICTを活用した授業を常時行い、そのためのサポート体制が充実している。
- 教育課程の接続等小中一体教育が進んでいる。
- △他者との情報交換や課題解決に向けての話し合い等、協働的な学びの充実が全国より低い。
- △総合的な学習の時間での探求の過程を意識した指導が全国より低い。
- △タブレットの家庭での利用が進んでいない。

中学校：学校質問紙

- 課題設定、課題解決について話し合い、まとめ、表現するなどの校内研修が進んでいる。
- 生徒が、自ら考え発言したり、グループ等で協働的な学びを通して課題解決したりすることができている。
- 英語の授業において、英語を使って話す・聞く・読む・書く言語活動が進んでいる。
- ICT機器を使った授業をほぼ毎日行い、サポート体制も充実している。
- 教育課程の接続等小中一体教育が進んでいる。
- △ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を十分に取り入れた取組が全国に比べて低い。

2 白杵市の学校質問紙調査の結果をふまえて

・関係機関との連携の強化

「15の春の自立をめざした系統的な教育」を進めるために、幼小中一体教育が進んできている。さらに互いの教育を共通理解し、教育課程について協議するなど行っていく必要がある。また、地域、保護者と「子どもにつけたい力（資質・能力）」を共有し、熟識しながら取組を深化していく必要がある。

・ICTの有効活用に向けた環境及び条件整備

一人一台端末の授業での効果的な活用は進んでいる。今後、ICTプロジェクト会議等で家庭学習での効果的な活用やオンラインでの交流等進めていく必要がある。

・主体的・対話的で深い学びの実現のため、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、資質・能力の向上につながる授業改善をさらに進めていく。

令和5年度 全国学力・学習状況調査 児童質問紙より（小学校6年生）

①全国より肯定的な回答が多かった項目

質問項目	白杵市	全国	差
○先生は、あなたのよいところを認めてくれますか	93.8	89.8	4.0
○先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる	97.3	93.0	4.3
○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	99.6	96.9	2.7
○家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	78.6	70.7	7.9
○読書は好きですか	77.8	71.8	6.0
○今住んでいる地域の行事に参加していますか	64.6	57.8	6.8
○5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	84.1	78.8	5.3
○5年生までに受けた授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめていた	80.9	74.4	6.5
○5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた	89.1	82.9	6.2
○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている	86.7	81.8	4.9
○学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている	87.5	77.4	10.1
○授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている	86.8	81.9	4.9
○学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる	82.5	75.7	6.8

②全国より肯定的な回答が少なかった項目

質問項目	白杵市	全国	差
○新聞を読んでいる（月に1～3以上読んでいると回答）	20.7	26.6	-5.9
○外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う	67.7	72.5	-4.3
○将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う	47.5	52.5	-5.0

令和5年度 全国学力・学習状況調査 生徒質問紙より（中学校3年生）

①全国より肯定的な回答が多かった項目

質問項目	白杵市	全国	差
○先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる	93.3	88.9	4.4
○家で自分で計画を立てて勉強をしている	59.6	55.0	4.6
○土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（1時間以上していると回答）	56.3	40.0	16.3
○昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館（それぞれ電子図書館を含む）にどれくらい行きますか（週に1～3回程度以上行くと回答）	38.3	18.5	19.8
○1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか（週3回以上と回答）	76.3	66.1	10.2
○学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う	96.1	93.3	2.8
○1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	75.2	69.1	6.1
○1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動を行っていた	75.2	69.3	5.9
○学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている	84.4	79.7	4.7
○学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている	74.8	69.2	5.6
○授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている	74.1	69.9	4.2
○学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる	80.1	71.6	8.5
○道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる	92.9	86.3	6.6

②全国より肯定的な回答が少なかった項目

質問項目	白杵市	全国	差
○自分にはよいところがあると思う	74.2	80.0	-5.8
○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	93.6	95.5	-1.9
○人の役に立つ人間になりたいと思う	90.4	94.6	-4.2
○学校に行くのは楽しいと思う	75.5	81.8	-6.3
○新聞を読んでいる（月に1～3以上読んでいると回答）	15.2	19.3	-4.1
○読書は好きである	61.0	66.0	-5.0
○外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う	62.1	66.8	-4.7
○1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた	57.4	62.1	-4.7
○将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う	33.0	36.7	-3.7

令和5年度 全国学力・学習状況調査 学校質問紙より（小学校）

①全国より肯定的な回答が多かった項目

質問項目	白杵市	全国	差
前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか。（月に数回以上）	92.3	76.5	15.8
前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか（月に数回程度以上）	92.3	86.7	5.6
指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか（よくしていると回答）	61.5	43.2	18.3
調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	92.3	79.0	13.3
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	100	89.0	11.0
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	100	85.6	14.4
学校として外国語教育の充実に取り組む上で、必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けていますか	92.3	71.8	20.5
コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか	100	87.4	12.6
調査対象学年の児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか（週3回以上と回答）	69.3	45.8	23.5
前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	100	58.2	41.8
令和4年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有しましたか	92.3	53.6	38.7
保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に参加していますか（よく参加していると回答）	92.3	56.5	35.8
コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか（そう思うと回答）	69.2	27.3	41.9

②全国より肯定的な回答が少なかった項目			
質問項目	白杵市	全国	差
ICTを活用した校務の効率化の一環として、クラウドを活用した校務の効率化（クラウドサービスを活用した保護者への連絡や、アンケートの実施、教職員等会議のオンライン化等）に取り組んでいますか。（多くの公務で取り組んでいる）	23.1	37.4	-14.3
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか。	84.6	94.3	-9.7
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	77.0	90.4	-13.4
調査対象学年の児童に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	77.0	92.7	-15.7
調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、自分と相手との間に好ましい関係を築き、継続させるといった言葉の働きに気付くことができるような指導を行いましたか	84.6	92.9	-8.3
調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるような指導を行いましたか	84.6	93.2	-8.6
調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	84.6	92.1	-7.5
児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか（毎日持ち帰っている）	15.4	32.5	-17.1

令和5年度 全国学力・学習状況調査 生徒質問紙より（中学校3年生）

①全国より肯定的な回答が多かった項目

質問項目	白杵市	全国	差
指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	100	88.5	11.5
言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか	100	93.4	6.6
授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか	100	94.7	5.3
生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか	100	83.8	16.2
個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（オンラインでの参加を含む）	100	81.1	18.9
調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	100	88.0	12.0
調査対象学年の生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	100	81.6	18.4
調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	100	86.2	13.8
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	100	87.0	13.0
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	100	74.6	25.3
調査対象学年の生徒に対する指導に関して、前年度に、本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行いましたか（月に数回程度以上と回答）	100	64.7	35.3
調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、行書の基礎的な書き方（「点画の連続」や「点画の省略」、「筆順の変化」など）を理解して書くことができるような指導を行いましたか	100	79.1	20.9
調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を行いましたか	100	86.9	13.1
調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動を行いましたか	100	74.2	25.8
調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動を行いましたか	100	75.4	14.6

前年度に、教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか（ほぼ毎日と回答）	100	71.8	28.2
コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか	100	82.5	17.5
教職員と調査対象学年の生徒がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか（週3回以上と回答）	100	48.7	51.3
調査対象学年の生徒同士がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	100	33.7	66.3
教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器をどの程度活用していますか	80	61.6	18.4
生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（4）生徒の心身の状況の把握（ほぼ毎日と回答）	80	28.0	52.0
前年度までに、近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	80	66.8	13.2
令和4年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有しましたか	80	54.7	25.3
教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	100	83.2	16.8
コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか	100	79.3	20.7
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学校では、生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かしましたか	100	84.4	15.6
令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）	100	81.1	18.9

②全国より肯定的な回答が少なかった項目

質問項目	白杵市	全国	差
ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を十分に取り入れていますか	80	97.7	-17.7
調査対象学年の生徒に対する数学の授業において、前年度までに、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行いましたか	80	84.3	-4.3